松江にきた乾燥標本アメリカウミザリガニ

挿図 2

上 田 常 一

(松江市西川津町 3365-77)

前 田 新 平

(米子市西三柳 4758)

A DRIED SPECIMEN OF AMERICAN LOBSTER BROUGHT TO MATSUE

With 2 Text-figures

by

Tsuneichi KAMITA

(3365-77 Nishi-Kawatsu, Matsue City)

and

Sinpei MAEDA

(4758 Ryo-mitsuyanagi, Yonago City)

Abstract: Recently a good dried specimen of American Lobster, *Homarus americanus* is placed on show in a corner of the first floor of the Matsue Branch of the Central Bank for Agriculture and Forestry. This lobster was caught 250 sea miles off the coast of New York City by a crew of the Ōkuni-maru, a pelagic fishing vessel of Japan in January, 1974. The specimen is generally yellow-reddish brown coloured over the entire body, and measured 48 cm from the tip of rostrum to the posterior margin of telson. The carapace is 27 cm long including rostrum, and 21.5 cm excluding rostrum, with the width of 15 cm. The two spines furnished on the under-surface of the rostrum, the characteristic of the species, are of anomalous shape as follows: knitted together at the bases and expanded like a roundish plate as shown in the Text-fig. 2, B.

山陰遠洋漁業株式会社（鳥取県境港水産会館内）所属の大国丸が、1974年1月 New York 市沖 250 海里の大西洋で、大きな lobster を捕獲した。それは乗班員が乾燥標本に仕上げて、空路アメリカ經由境港市へ到着し、しばらく水産会館に出してあった。本文の掲載写真は当時前田が撮影した。この乾燥 lobster は後に、松江市殿町（県庁前）の農林中央金庫松江支所に移され、ガラスふた付き底白の木箱の中に固定し、アメリカウミザリガニのラベルをつけて、

一階のコーナーにかざってある。その名前がわかるまでには、次のようないきさつがあったと聞いた。会社ではまずもよりの鳥取県水産試験場境分場にその名前を尋ねられ、分場では東海区水産試験場や水産庁遠洋水産研究所に照会されて、アメリカウミザリガニに相違なしと認められた。すなわち American Lobster* で、和名は海底に穴を掘ってそこに後ずさりするの意である。

ウミザリガニ科 (Homaridae) に属し、学名を *Homarus americanus* MILNE-EDWARDS という。ヨーロッパ種の *H. gammarus* (L.)=*H. vulgaris* M.-EDWARDS や南アフリカのケープ種 *H. capensis* (HERBST) と共に、海産大型 lobster として有名である。分類上古くは

Astacus 属に入れられていたが、*Astacus* BORLASE, 1758 は river crayfish にあてられ、marine lobster には *Homarus* M.-EDWARDS, 1837 が用いられるようになった。

ところで、この乾燥標本のアメリカウミザリガニは大きさが、額角の先端から尾節の末端までの全長 48 cm、標本姿勢において第 1 胸脚を加えると 82 cm、額角を含む頭胸甲長 27 cm、額角長 5.5 cm、頭胸甲の最大幅部が 15 cm。初めて見る者はその巨大** なるに驚く。色彩はすっかり変色して黄味がかった赤かっ色*** である。

額角は真直にしてとがり先方が上曲し、背面中央縦に浅くてせまい溝がある額角の左側縁に前・中・後位の 3 歯、右側縁に前・中位の 2 歯をそなえて対向し、それらの歯は後方へ至るにつれて小さくなる。手元の♀標本 (全長 33 cm) では、額角両側に 3 歯対向しやはり後方ほど小さい。額角下面は、曲部において 2 個の棘 (とげ) が基部でゆ着しながら拡張して円板状奇形をなし、水平部に剛毛を列する。額角下面に 2 棘を有することは本種の重要な特徴であるが、手元の♀標本では 1 棘しかない。ヨーロッパ種やアフリカのケープ種の額角下面には棘はひとつもないのが特徴である。頭胸甲の背面前方に 8 歯あり、すなわち眼域の眼窩直後に 1、左右の触角域に 2、甲の両側角に 1 歯をそなえる。

Text-fig. 1. 乾燥標本アメリカウミザリガニ *Homarus vulgaris* (♂×0.15).

* アメリカの E.L. PALMER によれば (p. 372), カナダの Labrador 州からアメリカの North Carolina 州に至る大西洋岸に普通で、3 日間に 12 マイル移動する。

** PALMER によれば (p. 372), 大きさ 2 ft (筆者注: 61 cm) 重さ 28 lb (筆者注: 1.27 kg) を超える。

*** PALMER によれば (同上), 生時の色彩は背面暗緑色にして、薄黒い斑点を有し、下面は黄ばんでいる。

Text-fig. 2. アメリカウミザリガニの額角と触角. A, 額角背面; B, 同側面とくに2棘の奇形を示す; C, 第2触柄. (縮小率不同)

第2触角のりん片は小さく葉状をなし、触角べんは標本姿勢では後背方に曲げられ、先端は第5腹節に達す。

第1胸脚は左右不相称にして、左側のものは著しく大形（手元の♀標本では右側が大形）である。掌節は幅広く表裏とも中高にして外縁部は弧状をなして扁平、関節部に近く1歯を有し内側縁に5歯を列す。可動指（指節）は不動指より著しく幅せまく、外側面に1条の縦溝がある。また、左側の不動指は内縁に丸みのある白い大歯を有し、それらの内で外方位のものは格別大きく、可動指は不そろいの小歯を列する。右側の不動指は多くの細歯を列するがほぼ中央の1歯が大きく、可動指は多くの細歯のみがならぶ。左右の腕節は背面に2歯、内縁に2歯、外縁に3歯を有す。第1腹肢は♂にあっては鉤（かぎ）状をなし、♀では正常である。両者ともに尾扇が大きく発達する。

付記 本種の個体発生（変態）については、古く前世紀において S. I. SMITH が詳細に記載した。T. STEBBING がその原図3葉を著書 (p. 202) に転載し、E. L. PALMER がその後の学者の研究を併せて著書 (p. 372) に述べているところでは、その生活史は次のようである。5月に交尾し♀は6月腹部の下面に10万粒の卵を抱く。翌年5月にミシス期でもってふ化しゾエア期を省略する。稚エビは透明にして2か月間浅海の水面を遊泳し、第6回脱皮後に底生活に入る。ふ化後6年大きさ30 cm にして初めて交尾する。最も有用な甲殻類として、30 cm を超えるまで漁獲をひかえることになっている。

謝辞 東京国立科学博物館の武田正倫博士から、GORDON 博士が来朝寄贈のヨーロッパ種（液漬）と西アフリカ産のケープ種（冷凍）の lobster を見せてもらった。東京水産大学水産資源研究施設の小笠原義光教授が、飼育中死んだアメリカ種の♀（冷凍）を下さった。九州大学名誉教授三宅貞祥博士が SCHELLENBERG や BARNARD の文献のコピーを作って下さった。ここに深く感謝の意を表する。

なお、フロリダ国際大学生物科学教室の PATSY A. McLAUGHLIN 博士が、M. MILNE-EDWARDS のアメリカウミザリガニの原記載 (in: *Histoire Naturelle des Crustacés*, 1837, pp. 334~335. Paris.) のコピーを送って下さった。深く感謝の意を表する。

参 考 文 献

- BELL, T. 1848. Lobster *Homarus vulgaris* Edw. in: A History of the British Stalk-eyed Crustacea, pp. 242-249.
- PALMER, E. L. 1950(?) Lobster *Homarus americanus*. in: Fieldbook of Natural History, p. 372.
- SCHELLENBERG, A. 1928. *Homarus vulgaris* M.-EDWARDS. in: Tierwelt Deutschlands und der Meerestile. 10 Teil, II. Decapoda, Zehnfüßer, pp. 52-56.
- STEBBING, T. 1893. *Astacus americanus* (MILNE-EDWARDS). in: A History of Crustacea, Recent Malacostraca. International Scientific Series vol. 74, pp. 203-205.
- BARNARD, K. H. 1950. Cape Lobster. *Astacus capensis* HERBST. in: Descriptive Catalogue of South African Decapod Crustacea. Annals of South African Museum. vol. 38, pp. 526-527.